

## 実体経済の動向

### ◇生産高水準のうちにも製品在庫の増加目だつ

(生産——7月は高水準機ばい)

鉱工業生産(季節調整後)は、6月に前月比+4.3%と大幅増加のあと、7月(速報)は前月比横ばいとなった。このところ、生産は月によりかなりのふれをみせているが、3ヵ月移動平均でみると、4月前月比+1.0%、5月+2.1%、6月+1.3%と依然根強い増勢を示している。また、年初来7月までの月平均上昇率は+1.4%(44年7~12月、月平均+1.5%)となっており、後述するような製品在庫の増加にもかかわらず今のところ生産の増勢はほとんど鈍化していない点が注目される。

7月の生産動向を特殊分類別にみると、一般資本財が減少、輸送機械、生産財も微減となったが、耐久消費財が前月に続きかなりの増加を示したほか、建設資材、非耐久消費財も増加した。まず、一般資本財では、金属加工機械(工作機械、圧延機械)は高水準の受注残を背景に増勢を持続したが、前月著増した大型発送配電機器、運搬機

械(クレーン、コンベア)等が反動減となったほか、出荷の伸び悩みから在庫の増加が目だつ土木建設鉱山機械(トラクター)が減少、標準電動機・変圧器も小幅減少となったため、全体では前月比-2.2%の減少となった。生産財、輸送機械はともに前月比-0.2%の微減となったが、生産財では、このところ需給引きゆるみから一部品種について生産調整を実施している鉄鋼のほか、電子部品、化繊等が減少、輸送用機械では大型トラック、中型乗用車(1,500~2,000cc)が減少した。一方耐久消費財は、カラーテレビ、小型乗用車(1,000~1,500cc)、卓上扇風機を中心に前月比+2.4%と引き続き増加し、建設資材もセメント、橋りょうを中心に増勢を持続(+1.6%)、非耐久消費財ではプラスチック製品、陶磁器等が増加を示した。

(出荷——7月は微増)

鉱工業出荷は、6月に前月比+4.4%とかなりの増加を示したあと7月(速報)は+0.1%の微増となった。3ヵ月移動平均でみても、4月+0.2%、5月+0.4%、6月+1.3%とひとところほどではないにしても伸びがやや高まったが、これには長雨後の建設需要本格化およびモデル・チェンジ

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	44年		45年		45年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
鉱 指 数	190.1	199.2	205.5	216.0	212.8	221.8	—
工 前期(月)比	4.2	4.8	3.2	5.1	-0.3	4.3	0
業 前年同期(月)比	17.1	17.7	19.0	18.4	17.0	20.3	—
投 資 財	4.8	7.2	7.9	6.5	-0.5	6.0	-0.5
資 本 財	5.4	7.2	10.1	6.3	1.7	7.1	-1.5
同 (輸送機械を除く)	2.7	10.2	12.2	6.1	1.1	8.4	-2.2
輸 送 機 械	9.8	1.8	5.7	7.4	3.3	2.2	—
建 設 資 材	3.8	6.8	2.4	6.2	-4.6	2.4	1.6
消 費 財	2.7	3.2	-2.1	6.2	0.7	3.6	1.5
耐 久 消 費 財	5.0	6.6	-4.9	5.8	3.3	3.7	2.4
非 耐 久 消 費 財	0.9	1.5	1.6	4.8	-1.5	3.3	0.3
生 産 財	4.1	4.8	3.1	2.9	-0.9	3.2	-0.2

(注) 1. 通産省調べ、45年7月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	44年		45年		45年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
鉱 指 数	184.7	192.5	202.7	205.4	202.1	210.9	—
工 前期(月)比	3.5	4.2	5.3	1.3	-0.6	4.4	0.1
業 前年同期(月)比	17.6	18.0	20.2	15.4	14.0	17.0	—
投 資 財	1.0	5.4	10.3	2.1	-0.7	7.0	-0.6
資 本 財	-0.3	5.5	14.0	0.4	0.9	9.2	-1.7
同 (輸送機械を除く)	4.8	5.9	10.8	2.2	0.4	7.7	0.4
輸 送 機 械	-8.2	5.1	21.0	-4.2	1.9	14.2	—
建 設 資 材	3.9	5.4	0.9	6.5	-3.6	0.9	2.4
消 費 財	3.6	3.5	1.3	2.2	0.9	3.5	0.1
耐 久 消 費 財	9.6	4.8	-2.7	3.3	2.2	8.0	0.2
非 耐 久 消 費 財	1.4	3.0	3.2	0.9	-0.4	0.8	0.2
生 産 財	5.2	3.7	4.2	0.9	-2.1	2.8	0.6

(注) 1. 通産省調べ、45年7月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

後の小型乗用車の出荷待直しといった事情も響いているものと思われる。

特殊分類別にみると、前月船舶の引渡し集中から著増した輸送機械が反動減となったほかは、各財とも小幅ながら増加した。なかでも、建設資材が天候の回復や、官公需の増加もあってセメント、橋りょうを中心に前月比+2.4%の増加となり、生産財も前月やや目だった増加を示したあと、鉄鋼(銑鉄等)、重油、産業用ガラス製品等を中心に小幅増加(+0.6%)を示した。そのほかは総じて小幅の増加ながら、一般資本財(+0.4%)では前月増加が目だった運搬機械、農業用機械等は減少した反面、金属加工機械(圧延機械、工作機械、鉄鋼用ロール)、合成樹脂加工機械等はかなりの増加を示した。耐久消費財(+0.2%)ではカラーテレビ、冷蔵庫は反動減となったが、エアコンディショナー、小型乗用車(1,000～1,500cc)は当月も比較的高い伸びを続け、非耐久消費財(+0.2%)ではプラスチック製品、メリヤスはだ着等が増加した。

(製品在庫——かなりの増加)

7月の製品在庫は前月比+2.7%(速報)と2ヵ

月連続2%をこえる増加となった。3ヵ月移動平均でも4月+1.7%、5月+2.4%、6月+2.4%とかなりの増勢を示している。

特殊分類別にみると、7月は各財軒並み増加となった。とくに輸送機械が売れ行き不ぞえのトラックに加え、メーカーの増産意欲が根強い中型乗用車(1,500～2,000cc)の増加もあって著増したほか、一般資本財もユーザーに買い控えのみられる銅電線ケーブル、トラクター、標準電動機、農業用機械のほか、工作機械も加わって+4.2%と前月(+6.5%)に続き高い伸びを示した。また、建設資材(+3.3%)では金属製建具、耐火れんが、磨き板ガラス等で荷余りによる在庫の増加が目だし、非耐久消費財(+3.3%)でもメリヤス製品、プラスチック製品、洋紙等が増加しており、これらについては需給の緩和傾向がうかがわれる。一方生産財は+1.8%と、増加率はやや小幅(前月+2.9%)であったが、このうち電子部品、化学肥料、合成樹脂、合繊維物等は増勢を強めており、また耐久消費財も前月減少したカラーテレビ、軽乗用車を中心に再び増加した(+2.2%)。なお、このところ製品在庫の増加が目だつ品目は生産も概して高水準である。

以上の出荷、在庫の動きを映じて、7月の製品在庫率指数(速報)は96.9(前月94.4)とかなり上昇した。これは自動車の損害賠償責任保険料率引上げによるいわゆる自賠責ショック後一時的に在庫率が高まった昨年11月に次ぐ比較的高い水準である。財別にみると各財とも前月を上回ったが、とくに建設資材、生産財はひとところに比べ上昇が目だし、建設資材は40年以來の最高、生産財は41年7月以來の高い水準となっている。また非耐久消費財もこのところ上昇傾向をたどっている。

(原材料在庫——輸入分の入着集中もあり大幅増加)

7月の原材料在庫(季節調整済み、速報)は、前月比+5.3%(国産分+4.3%、輸入分+8.5%)と大幅な増加を示した。業種別にみると、金属製品、機械は在庫手当ての慎重化もあり小幅減少を示したが、鉄鋼、非鉄金属、石油、繊維等で増加が目

#### 鉄工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	'44年		45年		45年		
	9月	12月	3月	6月	5月	6月	7月
鉄指数	173.2	186.4	185.5	199.1	194.3	199.1	—
前期(月)末比	2.9	7.6	-0.5	7.3	1.9	2.4	2.7
前年同期(月)末比	21.2	20.3	16.3	18.3	18.1	18.3	—
製品在庫率指数	91.8	95.0	89.0	94.4	96.2	94.4	96.9
投資財	0.4	11.0	3.3	13.7	3.6	5.7	3.8
資本財	-2.7	14.8	1.7	17.9	5.9	7.1	5.0
同(輸送機械を除く)	-4.9	14.1	4.0	17.0	5.1	6.5	4.2
輸送機械	9.5	18.3	-9.2	20.9	7.5	10.0	—
建設資材	4.8	6.7	5.3	8.3	1.0	4.0	3.3
消費財	6.7	7.5	-5.7	6.1	1.0	1.6	1.8
耐久消費財	9.8	5.7	-2.2	8.2	4.2	-0.2	2.2
非耐久消費財	1.1	2.4	-2.9	5.4	-0.4	2.5	3.3
生産財	-0.3	7.4	1.8	7.0	2.2	2.9	1.8

(注) 1. 通産省調べ、45年7月は速報。  
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

## 製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	44年	45 年		45 年		
	12月	3月	6月	5月	6月	7月
在庫指数	149.9	155.1	159.4	160.1	159.4	167.8
前期(月)末比	2.5	3.5	2.8	1.5	-0.4	5.3
国産分	2.4	4.4	3.7	2.7	-0.3	4.3
素原材料	0.6	0.9	4.8	4.7	-2.5	4.5
製品原材料	2.9	4.7	3.4	1.9	0.7	4.6
輸入分	3.9	1.1	-1.5	-1.5	-1.2	8.5
素原材料	2.9	1.9	-2.0	-1.2	-1.7	8.7
在庫率指数	76.6	77.7	78.4	79.7	78.4	82.1
国産分	72.6	74.3	75.7	76.9	75.7	78.6
素原材料	79.1	80.2	84.0	87.0	84.0	87.6
製品原材料	73.2	75.0	76.0	76.5	76.0	79.2
輸入分	91.6	90.5	88.2	88.0	88.2	92.4
素原材料	91.5	91.0	88.1	88.2	88.1	92.5

(注) 通産省調べ、45年7月は速報。

だった。このうち、非鉄金属や石油の急増は銅鉱石や原油(いずれも輸入分)の入着集中によるところが大きい。鉄鋼や繊維では、銑鉄、くず鉄、合繊維物等中間原料の増加が目立ち、これらは製品需給の引きゆるみに伴う生産調整(ホットコイル)や、加工発注の手控え(合繊)等の動きを映じたものと思われる。

## (販売業者在庫——6月は微増)

6月の販売業者在庫(季節調整済み、速報)は、前月比+0.2%(前月+4.6%)と小幅増加にとどまった。品種別には鋼材が引き続き増加し、民生用電気機械、繊維原料等もやや増加したが、反面前月急増した自動車が小幅ながら減少し、非鉄金属も先安見越しなどによる仕入れ手控えから減少傾向を

向を持続した。

## (設備投資——先行指標はやや弱含み)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み)は、6月に前月比+7.7%と急増したあと7月(速報)も同+0.4%と小幅ながら増勢を持続した。3ヵ月移動平均でみると、4月+0.2%、5月+1.9%、6月+2.8%とひとところ(44年10~12月+7.0%、45年1~3月+8.6%)ほどではないものの、依然かなりの伸びを示している。

機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み)は、3月以降減少を続け、とくに6月は前月比-23.2%と著減したが、7月には+29.9%と大幅に増加した。これには、前月著減(-66.5%)の電力が原子力発電設備を中心に急増(前月比約6倍)したことが大きく響いており、受注額としてはなお5月の水準を若干下回っている。また3ヵ月移動平均値の前月比でも、4月-1.9%、5月-8.9%、6月-1.0%と減少している。受注先業種別にみると、非製造業は建設業、運輸業の減少にもかかわらず上述の電力の著増から前月比+84.0%の大幅増加となったが、製造業は前月比+4.1%の小幅増加にとどまった。製造業の内訳では、石油精製が44年度認可分のうち未計上分の受注集中から、また化学はエチレン誘導品関連の大口受注を中心に前月と様変わりの増加となった反面、自動車、鉄

## 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	44年	45 年		45 年		
	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
民 需	2,224	2,739	2,522	2,704	2,096	2,593
	(+ 5.2)	(+23.2)	(- 7.9)	(- 2.3)	(-22.5)	(+23.7)
同 (船舶を除く)	2,048	2,385	2,314	2,486	1,908	2,478
	(+ 3.1)	(+16.4)	(- 2.9)	(- 2.5)	(-23.2)	(+29.9)
製 造 業	1,358	1,410	1,487	1,567	1,300	1,353
	(+ 8.5)	(+ 3.9)	(+ 5.4)	(- 1.7)	(-17.0)	(+ 4.1)
非製造業	859	1,360	1,036	1,140	822	1,245
	(- 0.6)	(+58.3)	(-23.8)	(- 2.3)	(-29.6)	(+55.2)
同 (船舶を除く)	706	986	832	929	622	1,145
	(- 4.5)	(+39.7)	(-15.6)	(- 1.6)	(-33.0)	(+84.0)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

## 販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	44年	45年		45 年		
	12月	3月	6月	4月	5月	6月
総合指数	157.8	160.8	172.3	164.5	172.0	172.3
前期(月)末比	8.2	1.9	7.2	2.3	4.6	0.2
素原材料	11.3	- 4.2	- 6.2	- 6.1	- 2.5	2.4
製 品	7.7	2.7	8.4	3.1	4.9	0.3

(注) 通産省調べ、45年6月は速報。

鋼、繊維等は3か月連続、機械、窯業も2か月連続の減少となった。

7月の建設工事受注額(民間産業、季節調整済み、速報)は前月比-0.8%と、4月急増のあと3か月連続減少を示した(3か月移動平均値の前月比4月+1.8%、5月+2.5%、6月-4.3%)。これは化学大型プラント(エチレン関係)の工事一巡のほか、小口工事がやや伸び悩みとなっていることも響いているものとみられる。

なお、8月時点調査の本行「短期経済観測」によれば、主要企業(521社)の45年度設備投資計画(工事ベース)は、4兆6,952億円、前年度比+18.1%と5月調査(+16.1%)に比べ小幅ながら増額修正された。業種別の修正状況を5月調査に比べてみると、一般機械、電気機械、自動車、建設・不動産等が減額修正された反面、繊維、非鉄、化学、石油、窯業等は増額修正されている。期別には上期+9.5%、下期+1.6%と下期に鈍化する計画となっているが、5月調査に比べると下期も若干上乗せされている。

一方中小企業(2,250社)についてみると、45年度設備投資計画は+6.6%と2月調査(-1.1%)、5月調査(-2.0%)に比べれば増額修正されているが、伸び率はかなり低め(44年度+27.2%)となっている。業種別には、繊維、一般機械、電気機械、輸送用機械等で前年度計画を下回っているが、反面、木材、鉄鋼、非鉄、化学等ではかなりの投資増加を計画している。もっとも、これまでの調査をみると、小企業の場合、計画と実績値にはかなりの乖離があり、今後さらに上積みされる公算が大きいように思われる。

#### ◆商品市況は大勢落着きぎみに推移

8月の商品市況をみると、月央ごろまでは棒鋼、厚板、重油、生糸が続騰、綿糸、スフ糸も反騰するなどやや底堅い動きもみられたが、その後鉄鋼では薄板が軟調持続のほか、条鋼類、厚板が騰勢一服となり、繊維でも綿糸は続伸したものの、スフ糸、生糸等が反落した。この間、非鉄金属では銅、鉛が続落歩調をたどり、その他の商品では

合成樹脂、木材、砂糖等が弱含みとなっている。

このように最近の商品市況は、8月前半ごろまでの動きに比べ総じてやや落着き感がうかがわれるが、これにはそれまで一部商品にみられた値上がりが生産調整や出荷規制等の市況対策のほか、盆休み明け後の実需増を見越した商社の買い進み(綿糸、生糸)、定期市場での仕手筋の買いあおり(生糸、スフ糸)などの人气的要素にささえられた面がかなり大きかったことが影響している。需給の地合いとしては輸出引合いの伸び悩み(鉄鋼、合繊)、供給力増(銅、塩ビ等)などからこのところ引きゆるみ気配を示す商品が漸増しており、条鋼類についての特約店、ユーザー筋の補充買いにも一巡傾向がうかがわれ、また生糸、スフ糸等ではここにきて仕手筋が利食い売りに転ずるなどの動きがみられるようになってきている。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……全般に荷動きは盛り上がりには乏しく、薄板が引き続き軟弱地合いを続けたほか、ひところ反発場面をみせていた棒鋼、厚板、形鋼も月央以降騰勢一服ないしは弱含みに転ずるなど、総じて弱保合いで推移した。市場では、大型高炉の新規稼働があいつぐうえ、輸出環境の不ざえなどもあって、先行きの需給バランス悪化を予想し、再び買い控え態度を強める気運がみられはじめている。

繊維……綿糸、綿布が値上がりの反面、合成繊維、羊毛糸は軟調を続け、人絹糸も反落した。綿糸値上がりの背景は、実需筋の在庫補充見越しによる商社の買い進みにあるが、このところ生産は低下ぎみで在庫水準が低く、需給そのものも比較的タイトに推移している。なお、上伸を続けていた生糸、スフ糸については、月後半に至り利食い売りがいったことから弱含みとなった。

非鉄金属……銅、鉛が続落、ニッケル、アルミ等も弱保合いで推移するなど、総じて弱基調を続けた。銅、鉛の続落は、海外相場の下落が主因であるが、国内需給も夏場不要期に加え電線、伸銅品、バッテリー・メーカー等実需筋の資金繰

り窮屈化に伴う買い控えもあって、引きゆるみ傾向を続けている。先行きについても、銅の場合海外相場が予想外的大幅統落を示しているため、市中にはひところみられた底値感が消え、再び先安観が広がっている。

石油製品……灯油が不需求期で小幅軟化、ガソリンは保合い商状を続けたが、C重油は、電力向けを中心に需要が堅調なうえ、タンカー・フレートの高騰によるスポット輸入の手控えもあって品不足が続いており、価格もじり高をたどった。

セメント……出荷は建設工事最盛期入りからかなりの伸びを示している。このような状況下メーカーでは、安値販売の自粛など売り腰を強めており、これを映じて末端でも小口袋売りについて価格引上げの動きなどが散見されはじめている。

木 材……梅雨明けとともにやや回復歩調を示した荷動きは、8月にはいり旧盆入りといった季節的事情から再び小口化し、市況も総じて弱

含みぎみとなった。なかでも、米材(つが材)については依然荷余り感が強く、値下がり傾向を継続。

化学品……硫酸、酸化チタン等は公害問題から供給が抑制されていることもあって市況は堅調ながら、合成樹脂関係(ポリエチレン、塩ビ等)では、生産力増や金融引締めに伴う実需先からの引合い不ざえが響き、弱含みを示すものが多くなっている。

紙……洋紙では、在庫凍結などの市況対策を背景に原料高を理由とする上質紙の代理店向け値上げが行なわれたが、完全に末端浸透をみるまでには至っていない模様。一方、板紙では、段ボール原紙の需給が引き続き緩和傾向をたどっており、中小メーカー製品のジュート・ライナー中心に先行き小幅軟化を予想する向きが多い。

砂 糖……清涼飲料向けグラニュー糖は高値を続けているものの、上白現物相場は、盆需要の一段落などの季節事情もあって小幅反落となった。

### 卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	前年度比上昇率		最 近 の 推 移(前月(旬)比上昇率)								
		43年度 平均	44年度 平均	45 年			45 年 7 月			45 年 8 月		
				5 月	6 月	7 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	
総 平 均	100.0	+ 0.6	+ 3.2	保 合	- 0.4	保 合	保 合	保 合	保 合	+ 0.2	+ 0.1	
食 料 品	15.7	+ 5.2	+ 4.2	- 0.2	+ 0.5	- 0.3	- 0.1	- 0.6	- 0.2	+ 0.3	+ 0.4	
織 維 品	10.7	- 0.9	+ 0.4	+ 0.2	- 0.1	+ 1.0	+ 0.6	保 合	+ 0.4	+ 1.1	+ 0.2	
鉄 鋼	9.7	- 4.4	+ 11.3	- 1.2	- 2.5	+ 0.4	+ 0.3	+ 0.5	+ 0.4	+ 0.2	保 合	
非 鉄 金 属	4.4	- 0.5	+ 18.2	- 1.8	- 5.8	- 4.0	- 1.1	- 1.1	- 1.5	- 0.2	- 1.0	
金 属 製 品	3.8	+ 0.7	+ 3.0	+ 0.4	+ 0.6	+ 0.2	保 合	- 0.1	+ 0.1	- 0.1	保 合	
機 械 器 具	22.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	保 合	+ 0.1	- 0.1	保 合	
石油・石炭・同製品	5.6	- 1.3	- 1.5	+ 0.5	+ 0.2	- 0.1	保 合	+ 0.2	- 0.1	+ 0.1	保 合	
木材・同製品	6.2	+ 5.2	+ 3.0	+ 0.4	- 0.1	+ 0.1	- 0.2	+ 0.4	+ 0.7	+ 0.4	+ 0.1	
窯 業 製 品	3.0	+ 1.8	+ 2.3	+ 0.4	+ 0.4	+ 0.4	+ 0.3	保 合	+ 0.1	保 合	保 合	
化 学 品	7.6	- 2.2	- 0.4	+ 0.2	+ 0.1	- 0.2	保 合	保 合	- 0.1	- 0.2	保 合	
紙・パルプ・同製品	3.4	- 0.9	+ 3.7	+ 0.4	保 合	+ 0.1	+ 0.2	- 0.2	+ 0.1	保 合	保 合	
雑 品 目	7.9	+ 0.9	+ 2.7	+ 0.5	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.1	保 合	保 合	+ 0.1	+ 0.1	
工 業 製 品	82.0	+ 0.3	+ 3.0	+ 0.2	- 0.5	+ 0.1	+ 0.2	保 合	+ 0.1	+ 0.2	保 合	
うち 大 企 業 性	59.6	- 0.4	+ 2.3	+ 0.2	- 0.7	保 合						
中小企業性	21.0	+ 2.2	+ 4.4	+ 0.4	- 0.1	+ 0.4						
非 工 業 製 品	18.0	+ 2.1	+ 4.1	- 0.8	- 0.3	- 0.7	- 0.3	- 0.3	- 0.3	+ 0.3	+ 0.3	

(注) 本行調べ。

## (卸売物価——7月保合いのあと反発)

7月の卸売物価は、前月-0.4%のあと、総平均で保合いとなった。類別にみると、非鉄金属が海外安を映じて大幅続落、食料品も反落を示したが、反面、鉄鋼が条鋼類、繊維品が生糸、スフ糸を中心にそれぞれ反騰したほか、金属製品、機械器具、窯業製品、木材・同製品等も値上がりした。

産業別分類では、工業製品が金属製品、繊維品等の中小企業製品の値上がりを主因に前月比+0.1%と微騰を示したのに対し、非工業製品は、原料炭、鉄くず、銅くず等の値下がりから、前月比-0.7%と5ヵ月にわたる続落となった。

8月にはいつてからは、非鉄金属が海外安から続落、化学品、機械器具も小幅ながら下落したものの、反面、繊維品が秋冬物の値決め期を迎えて大幅上昇をみたほか、鉄鋼(棒鋼中心)、木材・同製品(家具中心)が引き続き上昇し、食料品も反騰したため、上旬は前旬比+0.2%と5月上旬以来9旬ぶりに上昇、中旬も+0.1%と続騰した。産業別分類では、工業製品が市況商品の落着きを映じ騰勢一服となった(上旬+0.2%、中旬保合い)のに対し、非工業製品は農林水産品を主に反騰を示している(上旬+0.3%、中旬+0.3%)。

## (7月の工業製品生産者物価——保合い)

7月の工業製品生産者物価は、卸売物価と同様、前月-0.4%のあと、総平均で保合いとなった。これは、非鉄金属、合成繊維が続落した反面、天然および化学繊維、普通鋼鋼材が反騰、さらに一般機械、木材・同製品、紙・パルプ・同製品等も上昇したためである。

## (8月の消費者物価——続騰)

8月の消費者物価(東京、速報)は、総合で前月比+0.3%と引き続き上昇し(季節商品を除く総合では前月比+0.6%)、前年同月比では+4.8%となった。8月の上昇は雑費が教養娯楽費、被服費が身の回り品を中心にそれぞれ前月比+0.6%、+0.5%の上昇を示したことが大きく響いているが、そのほかの費目でも、食料費は、くだものの

## 工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	前年度比 上 昇 率	最 近 の 推 移 (前月上昇率)		
			45 年		
			5 月	6 月	7 月
総 平 均	100.0	+0.3 + 2.4	+ 0.1	- 0.4	保 合
食 料 品	12.6	+5.7 + 2.4	+ 1.0	- 0.4	+ 0.3
天然および化学繊維	3.0	-4.7 - 1.1	- 0.1	- 0.3	+ 1.0
合 成 繊 維	1.4	-6.4 - 3.1	- 0.6	- 0.5	- 0.5
織 物	2.8	-0.5 + 1.3	- 1.0	- 0.4	+ 2.0
繊維二次製品	3.2	+5.3 + 3.4	保 合	+ 0.2	- 0.1
普通鋼鋼材	7.2	-5.3 +10.2	- 1.3	- 3.1	+ 0.2
特殊鋼鋼材その他	2.5	-2.1 + 3.0	+ 0.2	+ 0.6	保 合
非 鉄 金 属	4.4	-0.5 +16.5	- 1.6	- 5.2	- 3.4
金 属 製 品	4.6	+0.6 + 2.2	+ 0.3	保 合	+ 0.3
一 般 機 械	10.4	+2.1 + 1.6	+ 0.4	+ 0.2	+ 0.5
輸 送 機 械	8.3	-1.6 - 1.2	保 合	+ 0.1	保 合
電気機械器具	9.1	-1.0 + 0.1	+ 0.3	+ 0.1	- 0.1
石油・石炭製品	3.7	-1.3 - 1.6	保 合	+ 0.1	+ 0.2
木材・同製品	5.0	+5.1 + 3.5	+ 0.3	+ 0.3	+ 0.3
窯 業 製 品	3.4	+0.9 + 1.4	+ 0.4	+ 1.2	+ 0.5
化 学 品	7.8	-2.6 - 1.0	+ 0.1	+ 0.1	保 合
紙・パルプ・同製品	4.5	-0.1 + 2.9	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.5
雑 品 目	6.1	+0.2 + 2.7	+ 0.8	- 0.1	+ 0.1

(注) 本行調べ。

大幅下落(同-14.8%)にもかかわらず、野菜(同+3.7%)、生鮮魚介(同+2.3%)、加工食品(同+2.3%)等の値上がりから微騰し(同+0.1%)、また住居費も家具の値上がりを主因にかなりの上昇をみた(同+0.3%)。

(7月の輸出入物価——輸入物価は続落、交易条件は改善傾向)

7月の輸出物価は、前月保合いのあと、総平均で前月比+0.1%の微騰となった(船舶を除く総平均では前月比-0.1%と続落)。財別にみると、機械器具、食料品、化学製品、雑品目が引き続き値上がりした反面、金属・同製品、非金属鉱物製品、繊維品は続落した。

一方、輸入物価は前月比-0.1%と6月(-0.5%)に続き下落した。これは金属が海外市況の軟調を映じて続落したほか、鉱物性燃料も反落を示したことが主因であるが、雑品目、食料品は引き続き上昇した。

## 消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

			ウ エ イ ト	前年度比 上 昇 率		最近の推移 (前月比上昇率)			最 前 月 同 比
				43年 度 平均	44年 度 平均	45 年			
						6 月	7 月	8 月	
消 費 者 物 価	東 京	総 合	100.0	+5.2	+6.6	-0.5	+0.4	+0.3	+ 4.8
		(季節商品 を除く)	91.4	+5.6	+5.6	+0.1	+0.2	+0.6	+ 5.6
		食 料	40.9	+6.5	+8.1	-1.1	+0.6	+0.1	+ 2.8
		住 居	10.7	+2.4	+3.0	+0.2	+0.4	+0.3	+ 5.0
		光 熱	4.5	+0.3	+0.3	保合	保合	+0.1	+ 0.1
	全 国	被 服	13.0	+5.5	+7.2	-0.2	+0.2	+0.5	+ 9.6
		雑 費	31.0	+5.3	+6.3	保合	+0.1	+0.6	+ 6.0
		総 合	100.0	+4.9	+6.4	-0.5	+0.7		+ 6.2
		(季節商品 を除く)	91.4	+5.3	+5.2	+0.2	+0.3		+ 5.7
		上 の 都 市	100.0	+4.9	+6.6	-0.5	+0.7		+ 6.2
輸 入 物 価	輸 入 物 価	(季節商品 を除く)	91.3	+5.3	+5.3	+0.2	+0.3		+ 5.9
		輸 出		+0.6	+4.0	保合	+0.1		+ 5.4
		輸 入 交 易 条 件		-0.3	+3.8	-0.5	-0.1		+ 3.5
				+0.9	+0.2	+0.5	+0.2		+ 1.9

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。  
2. 45年8月は速報。

この結果、交易条件指数は前月比0.2ポイント上昇し、5月以降改善傾向(4月100.4→5月101.0→6月101.5→7月101.7)をたどっている。

## ◇国際収支は引き続き小幅の黒字

7月の国際収支は、貿易収支が375百万ドルの大幅黒字となったものの、長期資本収支は延払信用や借款の供与増加などから前月に引き続きかなりの流出超となり、また貿易外収支も海運収支を中心に赤字幅が拡大したため、総合では79百万ドルの黒字(前年同月同120百万ドル)にとどまった。なお、貿易収支を季節調整した総合収支の黒字幅は4月47百万ドル、5月46百万ドル、6月35百万ドル、7月43百万ドルと前年同期(月平均200百万ドル)に比し大幅に縮減している。このような黒字幅縮減に対する要因別寄与度をみると、対日証券投資の流出超への転化によって約5割、貿易規模の拡大に伴う運賃支払と延払信用供与等本邦資本流出の増大によっておおむね各2割がそれぞれ寄与している。

貿易収支を季節調整後でみると、前月大幅増加

## 国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	44年		45 年			44 年 7 月
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	5 月	6 月	7 月
経 常 収 支	766	67	383	46	173	193
貿 易 収 支	1,159	591	851	209	335	375
輸 出	4,494	4,050	4,595	1,473	1,609	1,686
輸 入	3,335	3,459	3,744	1,273	1,274	1,311
貿易外収支	△ 356	△ 465	△ 417	△ 148	△ 139	△ 162
移 転 収 支	△ 37	△ 59	△ 51	△ 6	△ 23	△ 20
長期資本収支	△ 178	△ 438	△ 481	△ 189	△ 171	△ 163
本 邦 資 本	△ 579	△ 670	△ 455	△ 139	△ 166	△ 139
外 国 資 本	401	232	26	△ 50	△ 5	24
基礎的収支	588 (339)	△ 371 (37)	△ 98 (7)	△ 143 (△ 19)	2 (△ 11)	30 (△ 6)
短期資本収支	141	185	156	37	27	85
誤 差 脱 漏	△ 19	△ 170	△ 35	28	19	△ 36
総 合 収 支	710	△ 16	23	△ 78	48	79
金 融 勘 定	710	△ 16	23	△ 78	48	79
外 貨 準 備	270	372	99	△ 22	△ 132	△ 261
増 減 他	440	△ 388	122	△ 56	180	340
外 貨 準 備 高	3,496	3,868	3,769	3,901	3,769	3,508
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	694	395	419	343	419	670

(注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

を示した輸入が引き続き増勢をたどったものの、一方輸出も船舶の引渡しがかさんだことなどからかなりの伸びを示したため、月中339百万ドルと本年1月以来の大幅黒字(前月同322百万ドル)となった。

長期資本収支は、163百万ドルの赤字とほぼ前月並みの大幅流出超となった。これは、本邦資本が船舶の輸出伸長に伴う延払信用供与の増高に加え、円借款供与や海外資源開発融資の増加もあって139百万ドルの赤字となったうえ、外国資本も対日証券投資が引き続き流出超(23百万ドル、前月同16百万ドル)となったことなどから24百万ドルの赤字(前月同5百万ドル)となったためである。

金融勘定では、為銀の対外ポジションは輸出の好調を映じた買持ち輸出手形の増加、本行輸入資金貸付による外銀借入れの減少などから251百万

ドルの改善を示し、外貨準備は、イタリアの対 IMF 債権の肩代わりもあって月中 261 百万ドルの大幅減少となった。この結果、月末の外貨準備は 3,508 百万ドルとほぼ前年末(3,496 百万ドル)の水準にまで低下した。

7 月の輸出は、前年同月比 +21.5%、季節調整後の前月比 +3.2%と前月(前年比 +23.0%、季節調整後前月比 +6.0%)に引き続き好調を維持した。商品別(通関ベース)にみると、船舶が前年同月比 +52%と前月同様高い伸びを示したほか、鉄鋼(前年同月比 +34%)、自動車(同 +32%)、合繊織物(同 +26%)等も高水準を続けた。仕向け先別にみると、西欧向け(同 +68%)が依然相当の増勢を持続したほか、米国向けが自動車、合繊、食料品の好調などから同 +21%と 2 月以来 5 か月ぶりに 20%台の増加となった。反面、アフリカ、中共向けはほぼ前年並みと不振であったほか、東南アジア向けも同 +6%の伸びにとどまった。

先行指標である 8 月中の輸出信用状接受高は、前年同月比 +16.1%(前月 +17.4%)、季節調整後では前月比 +3.2%(前月 -0.1%)とこのところ一高一低ながら高水準を続けている。品目別に前年同月比伸び率をみると、自動車、一般機械、鉄鋼が好調を続けたほか、化学製品も中共向け化学肥料の成約などから再び増加したが、一方、繊維製品、雑貨類は引き続き不振で、電気機械も伸びが低下した。地域別には、欧州向けはひとところより伸びが鈍化しているものの、機械、鉄鋼を中心におおむね順調に推移し、また米国向けも、繊維製品、電機は不振ながら鉄鋼、自動車等の好調にさえられてまずまずの増加をみせたが、アジア向けは低調であった。

7 月の輸入は、前月著増(前年同月比 +30.8%、季節調整後前月比 +7.8%)のあと前年同月比 +28.4%、季節調整後の前月比でも +2.7%と根強い増勢を持続した。品目別(通関ベース)にみる

### 輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 入	輸 入
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	承 認
44年 4～6 月	1,277 (+ 6.2)	942 (+ 3.7)	335	1,306 (+ 5.9)	1,176 (+ 2.0)	1,044 (+ 2.7)	1,355 (+ 7.6)	1,232 (+ 14.4)
7～9 "	1,336 (+ 4.6)	1,056 (+ 12.1)	280	1,359 (+ 4.0)	1,337 (+ 13.6)	1,131 (+ 8.4)	1,414 (+ 4.4)	1,247 (+ 1.3)
10～12 "	1,394 (+ 4.3)	1,090 (+ 3.2)	304	1,416 (+ 4.2)	1,345 (+ 0.6)	1,216 (+ 7.5)	1,513 (+ 7.0)	1,268 (+ 1.6)
45年 1～3 月	1,499 (+ 7.6)	1,166 (+ 6.9)	333	1,538 (+ 8.6)	1,479 (+ 10.0)	1,235 (+ 1.6)	1,584 (+ 4.7)	1,401 (+ 10.5)
4～6 "	1,546 (+ 3.2)	1,228 (+ 5.3)	318	1,578 (+ 2.6)	1,534 (+ 3.7)	1,260 (+ 2.1)	1,627 (+ 2.7)	1,465 (+ 4.5)
45 年 3 月	1,511 (+ 1.3)	1,189 (+ 1.5)	322	1,565 (+ 3.1)	1,521 (+ 4.3)	1,178 (- 7.2)	1,633 (+ 4.4)	1,430 (+ 0.9)
4 "	1,528 (+ 1.1)	1,218 (+ 2.4)	310	1,546 (- 1.3)	1,496 (- 1.7)	1,257 (+ 6.7)	1,593 (- 2.4)	1,316 (- 8.0)
5 "	1,510 (- 1.2)	1,186 (- 2.6)	324	1,542 (- 0.3)	1,458 (- 2.5)	1,256 (- 0.1)	1,618 (+ 1.5)	1,554 (+ 18.1)
6 "	1,601 (+ 6.0)	1,279 (+ 7.8)	322	1,647 (+ 6.8)	1,648 (+ 13.0)	1,268 (+ 1.0)	1,669 (+ 3.2)	1,523 (- 2.0)
7 "	1,653 (+ 3.2)	1,314 (+ 2.7)	339	1,643 (- 0.2)	1,678 (+ 1.8)	1,267 (- 0.1)	1,707 (+ 2.3)	1,619 (+ 6.2)

(注) 1. 四半期計数は月平均。

2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

3. 季節調整はセンサス局法による。



と、鉄くず(前年同月比+115%)、銑鉄(同+81%)、非鉄金属鉱(同+49%)、石炭(同+57%)、砂糖(同+70%)等の増加が目だったが、これには輸入価格の上昇(前年同月比値上がり率、鉄くず52%、銑鉄58%、非鉄金属鉱27%、石炭23%、砂糖26%)もかなり響いている。

7月の輸入承認額は、前年同月比+29.3%、季節調整後の前月比でも+6.2%と大幅な増加を示

した。これには、航空機および同関連機器分50百万ドルが一括計上されていることも響いているが、これを除いてみても、季節調整後の前月比で+3.0%とかなりの増加となる。品目別に前年同月比でみると、非鉄金属鉱、鉄くずは高水準ながらひとところより伸びが鈍化しているものの、機械が上記特殊事情もあってかなり高い伸びとなった

### 通 関 輸 出 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	44年	45 年		45 年		
	10~ 12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
食 料 品	129 (+ 1)	125 (+ 22)	160 (- 7)	54 (- 7)	53 (0)	62 (+ 13)
魚 介 類	82 (- 3)	59 (+ 12)	65 (+ 13)	21 (+ 13)	24 (+ 22)	28 (+ 24)
繊維製品	662 (+ 8)	497 (+ 6)	584 (+ 4)	198 (+ 2)	199 (+ 8)	215 (+ 10)
綿 織 物	60 (- 18)	40 (- 21)	46 (- 19)	16 (- 18)	15 (- 17)	17 (- 7)
合繊維物	166 (+ 27)	123 (+ 27)	147 (+ 23)	50 (+ 20)	49 (+ 26)	56 (+ 26)
化学製品	301 (+ 30)	287 (+ 44)	296 (+ 32)	100 (+ 34)	91 (+ 20)	101 (+ 6)
非金属 鉱物製品	105 (+ 11)	86 (+ 1)	95 (- 4)	32 (- 5)	30 (- 7)	32 (- 2)
金属製品	870 (+ 31)	820 (+ 36)	940 (+ 36)	314 (+ 31)	319 (+ 36)	324 (+ 28)
鉄 鋼	651 (+ 36)	633 (+ 41)	689 (+ 36)	229 (+ 29)	240 (+ 41)	242 (+ 34)
機械機器	2,059 (+ 23)	1,933 (+ 27)	2,113 (+ 25)	639 (+ 23)	772 (+ 28)	796 (+ 28)
(船舶 を除く)	1,713 (+ 22)	1,536 (+ 26)	1,795 (+ 24)	590 (+ 25)	616 (+ 24)	660 (+ 24)
テレビ	100 (+ 16)	71 (+ 16)	88 (+ 7)	33 (+ 16)	30 (+ 5)	39 (+ 18)
ラジオ	174 (+ 33)	136 (+ 29)	169 (+ 24)	55 (+ 22)	58 (+ 23)	62 (+ 13)
自動車	267 (+ 25)	266 (+ 21)	306 (+ 31)	104 (+ 42)	102 (+ 32)	120 (+ 32)
船 舶	345 (+ 27)	397 (+ 35)	318 (+ 32)	49 (+ 8)	156 (+ 45)	136 (+ 52)
光学機器	124 (+ 13)	105 (+ 19)	123 (+ 11)	41 (+ 10)	42 (+ 11)	47 (+ 16)
そ の 他	445 (+ 10)	383 (+ 15)	481 (+ 11)	158 (+ 6)	175 (+ 17)	186 (+ 16)
合 計	4,571 (+ 20)	4,131 (+ 25)	4,668 (+ 21)	1,496 (+ 18)	1,640 (+ 23)	1,717 (+ 21)
(船舶を 除く)	4,225 (+ 20)	3,734 (+ 24)	4,350 (+ 20)	1,447 (+ 18)	1,484 (+ 21)	1,580 (+ 19)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

### 通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	44年	45年		45 年		
	10~ 12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
食 料 品	584 (+ 20)	579 (+ 15)	605 (+ 17)	211 (+ 14)	203 (+ 23)	219 (+ 22)
小 麦	75 (+ 3)	82 (+ 13)	66 (- 12)	30 (+ 10)	20 (- 10)	32 (+ 10)
とうも ろこし	72 (+ 15)	74 (+ 26)	78 (+ 24)	26 (+ 9)	26 (+ 30)	22 (+ 2)
砂 糖	56 (+ 75)	58 (+ 11)	63 (+ 52)	21 (+ 57)	21 (+ 71)	22 (+ 70)
原 燃 料	2,316 (+ 18)	2,421 (+ 26)	2,636 (+ 30)	890 (+ 26)	900 (+ 29)	924 (+ 29)
羊 毛	87 (- 6)	97 (- 3)	93 (- 5)	34 (- 8)	34 (+ 15)	34 (- 18)
綿 花	104 (- 11)	111 (+ 2)	131 (+ 14)	41 (+ 17)	47 (+ 8)	39 (+ 32)
鉄 鉱 石	255 (+ 16)	265 (+ 22)	306 (+ 25)	101 (+ 27)	107 (+ 20)	99 (+ 14)
鉄鋼くず	70 (+ 30)	66 (+ 108)	102 (+ 143)	38 (+ 118)	38 (+ 197)	42 (+ 115)
非鉄金属鉱	218 (+ 48)	255 (+ 72)	274 (+ 77)	77 (+ 40)	99 (+ 76)	87 (+ 49)
大 豆	77 (+ 10)	87 (+ 33)	87 (+ 26)	34 (+ 37)	30 (+ 30)	27 (- 4)
木 材	342 (+ 15)	338 (+ 28)	385 (+ 16)	130 (+ 17)	141 (+ 18)	149 (+ 26)
石 炭	184 (+ 36)	188 (+ 26)	249 (+ 58)	83 (+ 51)	83 (+ 50)	95 (+ 57)
原 油	536 (+ 18)	544 (+ 17)	534 (+ 18)	194 (+ 22)	160 (+ 11)	185 (+ 28)
化学製品	209 (+ 9)	239 (+ 29)	255 (+ 32)	85 (+ 32)	88 (+ 29)	84 (+ 21)
機械機器	429 (+ 23)	561 (+ 54)	591 (+ 46)	164 (+ 19)	260 (+ 85)	188 (+ 34)
鉄 鋼	66 (- 13)	81 (+ 24)	74 (+ 44)	28 (+ 17)	25 (+ 98)	27 (+ 81)
非鉄金属	256 (+ 35)	262 (+ 24)	237 (+ 15)	94 (+ 20)	69 (+ 7)	91 (+ 30)
そ の 他	260 (+ 39)	259 (+ 51)	282 (+ 44)	92 (+ 42)	96 (+ 35)	113 (+ 43)
合 計	4,120 (+ 20)	4,403 (+ 29)	4,680 (+ 30)	1,565 (+ 24)	1,640 (+ 35)	1,646 (+ 30)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

ほか、木材、石炭も増勢を強めている。

6月の輸入素原材料関係指標をみると、同消費（製造業、季節調整済み）は原油を中心に前月比-1.7%方の減少をみ、一方在庫も減少したため、

在庫率は88.2と前月並みの既往最低水準を続けた。在庫率指数を原指数でみると、鉄鉱石、くず鉄が前月比若干上昇の反面、原綿、原毛が減少を示している。